



# 館長だより

山形県産業科学館

令和 6 年 7 月 1 8 日 (木)

発行 館長 加藤 智 一

ツバメ

ツバメ (作詞/作曲 Ayase)

「ツバメ」という曲は、NHK で展開された SDGs 月間に向けて、「みんなのうた」でも「ひろがれ！いろとりどり～YOASOBI とつくる未来のうた」とリンクして SDGs キャンペーンソングとして広く親しまれています。作詞作曲は Ayase。歌は YOASOBI with ミドリズ。思わずマネしたくなるミドリズの可愛いダンスの振付も見どころの一つです。

なぜ今この話題を持ち出したのかと言うと、8月4日(日)に迫った「米沢混声合唱団」定演のアンコール曲になっているからなのです。なかなか歌詞が覚えられなくて、高齢者には辛い。おまけにちょっとした振り付けもあるので、なおの事苦しい。しかしこの歌詞、幼いころに読んだ童話とほぼほぼ内容が同じ。読めば読むほど悲しい気持ちが蘇ってきます。フリー百科事典『ウィキペディア』の力を借りて、その童話の内容を要約してみましょう。

タイトルは「幸福な王子 The Happy Prince」作者は「オスカー・ワイルド」、町の中心部に高く聳え立つ自我を持った王子像が、あちこちを飛び回って様々な話をしてくれるツバメと共に、苦労や悲しみの中にある人々のために博愛の心で自分の持っている宝石や自分の体を覆っている金箔を分け与えていくという自己犠牲の物語。最後は、宝石もなくなり金箔の剥がれたみすぼらしい姿になった王子と、一刻も早く南に渡っていくべきと後ろ髪を引かれながらも、ツバメは王子像と運命を共にするのです。

改めて Ayase 氏の書いた歌詞を読んでみましょう。現代の私たちが抱える矛盾と悲しみ。王子像のように分け与える物は持っていないけれど、世界中がささやかな愛で溢れたなら、何かがきっとかわるはずだと。



煌めく水面の上を  
夢中で風切り翔ける  
翼をはためかせて  
あの街へ行こう  
海を越えて  
僕はそう小さなツバメ  
たどり着いた街で触れた  
楽しそうな人の声  
悲しみに暮れる仲間の声  
みんなそれぞれ違う暮らしの形  
守りたくて気付かないうちに  
傷つけ合ってしまうのはなぜ  
同じ空の下で  
僕らは色とりどりの命と  
この場所で共に生きている  
それぞれ人も草木も花も鳥も  
肩寄せ合いながら  
僕らは求めるものも  
描いてる未来も違うけれど  
手と手を取り合えたなら  
きっと笑い合える日が来るから  
僕にはいま何ができるかな  
誰かが手に入れた豊かさの裏で  
帰る場所を奪われた仲間  
本当は彼も寄り添い合って  
生きていたいただけなのに  
悲しい気持ちに飲み込まれて  
心が黒く染まりかけても  
許すことで認めることで  
僕らは繋がりあえる  
僕らに今できること  
それだけで全てが変わらなくて  
誰かの一日にほら  
少しだけ鮮やかな彩りを  
輝く宝石だとか  
金箔ではないけれど  
こんな風に世界中が  
ささやかな愛で溢れたなら  
何かがほら変わるはずさ  
同じ空の下いつかきっと  
それが小さな僕の大きな夢

